第３回　旭川市民文化会館整備基本構想検討会　会議録（要旨）

会議名　　第３回　旭川市民文化会館整備基本構想検討会

開催日　　令和５年８月１７日（水）
　　午後１時３０分から午後３時３０分まで

開催場所　旭川市民文化会館　第２会議室（旭川市民文化会館　２階）

出席者　　参加者　全１２名のうち９名出席
（敬称略）　　上田　信津子，大口　優，佐藤　淳一，鈴川　雄太，
　　西川　祐司，水野　雅文，南　裕一，宮田　健一，森　傑
　　事務局　４人出席
　　社会教育部長，文化ホール担当課長，市民文化会館主査（２人）
　　事務局支援　４名
　　北海道大学大学院建築計画学研究室

会議の公開非公開の別　　公開

傍聴者数　　２名

会議資料　　別紙のとおり

１　開会

２　参加者紹介

３　議事

進行役：

- 一般に公共施設を整備する際，基本構想→基本計画→基本設計→実施設計→建設，という手順を踏むことになる。

- このうち基本構想というのは，コンセプトと言われる理念に相当する部分である。コンセプトによって新旭川市民文化会館をどのような考え方のホールにしていくのか，どのような機能を整備していくのかが定まる。例えば，ホールのコンセプトを興行に重きを置いたものとするか，あるいは市民利用に重きを置いたものとするのかによって，ホールの規模や運用は大きく異なってくる。
- 本検討会では，基本構想を定める上で，旭川市民文化会館においてどのような点がコンセプトになるかという部分を議論していくことになるが，議論に入る前に参考事例として，本検討会の開催支援を行う北海道大学大学院建築計画学研究室が過去に支援を行った苫小牧市市民文化ホールでの検討経緯について，事務局より紹介いただく。

３―（１）　苫小牧市民文化ホールにおけるコンセプト検討の経緯

事務局：
資料１に基づき説明

進行役：
□　苫小牧市民文化ホールについて補足
- 複合化対象として検討された交通安全センターや労働福祉センターは，文化ホールとは全く異なる機能を持つ施設であるが，頻繁に市民が利用する機能を複合することにより，ホールを含めた施設全体の利用機会を増やそうという意図がある。
- それぞれの施設の機能を複合するだけではなく，機能の相乗効果が生まれるようにそれぞれの役割を再定義することが重要である。

３―（２）　コンセプト比較シートについて

事務局：
資料２に基づき説明

□　枚方市総合文化芸術センター（大阪府枚方市）
- 市民の声として，「国内外の優れた文化芸術公演や優れた芸術家の美術・創作作品を鑑賞したい」，「子供が文化芸術に触れる機会の提供や発表会の開催を期待している」といったものがあった。
- コンセプトは「文化芸術とまちづくりが協奏する創造空間」であり，関連して「文化芸術に感動する」「文化芸術を創造する」「文化芸術でつながる」という３つのキーワードが掲げられている。

・ 「総合文化芸術センター」という施設名称のとおり，「文化芸術」という言葉が３つのキーワードに共通している。
・ 「文化芸術に感動する」に関連する機能として，音楽公演を主たる用途とする大ホールや演劇公演を主たる用途とする小ホールがある。
・ コンセプト文中の「まちづくり」に対応するキーワードが「文化芸術でつながる」であり，市民が気軽に訪れることができるエントランスホールや枚方市駅周辺エリアのにぎわい創出を促す緑豊かな施設前広場などがある。
・ コンセプト文中の「創造空間」に対応するキーワードが「文化芸術を創造する」であり，市民の美術創作活動の成果発表や子供たちの発表会等の主体的な活動を支えるギャラリーやホールが整備されている。

□ 水戸市民会館（茨城県水戸市）
・ 市民の声として，ホールの音響設備やコンベンション機能の充実，誰でも気軽に利用できる普及性が求められた。
・ コンセプトは「多様な人々の交流と多彩な文化が織りなす，ひと・まちが輝くステージ」であり，主なキーワードとして「芸術文化との出会いと創造」，「コンベンションの開催」，「日常的な賑わい」が挙げられている。
・ 「芸術文化との出会いと創造」を実現するために，幅広い演目に対応できる 2,000 席の多目的ホールを整備し，文化芸術に関するワークショップ等を開催することで市民と文化芸術の距離を縮めている。
・ 「コンベンションの開催」に関しては，規模の異なるコンベンションに対応できるよう会議室や展示室等を配置し，可動式の間仕切りなどフレキシブルで使い勝手の良い機能を実現することにより，リピーターの獲得を目指している。
・ 「日常的な賑わい」を生み出すために，こどもギャラリーやミーティングラウンジを設けることで，幅広い世代の市民がいつでも立ち寄ることができる憩いの場となるよう計画されている。

□ 由利本荘市文化交流館カダーレ（秋田県由利本荘市）
・ 市民の声として，「ボランティア活動ができる部屋がほしい」，「図書館や産官学が共同する場がほしい」，「地域のサークル活動が継続して行える諸室がほしい」，「既存の公民館での活動を新施設でも行いたい」というものがあった。
・ コンセプトは「地域にたったひとつの建築をつくる」であり，まちづくりと同時進行で地域のニーズに合った機能が集約された施設が検討された。
・ 主なキーワードとして，「世界一の文化施設」，「中心地の活性化」，「市民参加」が挙げられている。

・ 「世界一の文化施設」を実現するために多機能可変ホールを計画し，多用途に使用するための可変性と，本格的な音楽ホールとしての音響性能を両立している。
・ コンパクトなまちづくりの推進を背景として，まちの機能を集約し，施設を複合させることにより「中心地の活性化」を図っている。
・ 従前の文化会館，図書館，勤労青少年ホームを集約することでイベント開催時の相乗効果や周囲の商店街の活性化等を促している。
・ 「市民参加」を促進させるため市民ボランティア組織と行政が一体的に事業を計画し，市民の地域愛を育んでいる。
・ 高校生や大学生等の若い世代の運営や活動の参画を促すことで文化的な持続可能性を図っている。

進行役：
・ 紹介のあった３事例のような形で，旭川市におけるコンセプト，主なキーワード，主な機能・活動といった要素を基本構想として取りまとめたい。
・ 名称にそれぞれの施設の特徴が表れている。枚方市総合文化芸術センターは名称のとおり文化芸術の拠点に軸を置いている。苫小牧市民文化ホール，水戸市民会館は名称に「芸術」が入っておらず，市民活動を豊かにすることや地域の活性化に重きを置いていることが読み取れる。
・ 市民参加については，施設でどのような活動ができるのかあるいはしたいのかというソフト面の議論が，今後旭川においても重要になってくるかもしれない。

□ 苫小牧市民文化ホールについて補足
・ 文化芸術に触れる入口としての日常利用を重視している。
・ 「図と地」というキーワードは，建物を肖像画に例え，機能(図)だけを考えるのではなく，市民の憩いの場となるような余白の空間(地)を大事にしようという意味である。
・ 市民がどのような活動をしたいのかアイデアを募り，イオンモール苫小牧の催事スペースを借りた人気投票の結果を基に必要な機能を議論した。

□ 枚方市総合文化芸術センターについて補足
・ 主なキーワードが全て文化芸術に関連しており，あくまで文化芸術を中心に据え，活動を通して波及効果を生むというコンセプトを掲げている。

□ 水戸市民会館について補足
・ 市民の活発な利用を重視するとともに，コンベンション機能の充実により，積極的に市外から人やお金を引き込むことで，にぎわいを生む拠点にしたいという思いが表れている。

□　由利本荘市文化交流館カダーレについて補足

・　「ホール機能をメインとして，いくつかの附帯機能がある施設」ではなく，ホールの他に図書館などが同程度の規模感で複合化されており，地域の主な公共施設を一つの敷地に集めることで，多種多様な活動ができることを目指して整備された施設である。

３―（３）　質疑応答及び意見交換

参加者：

・　苫小牧市民文化ホールの建設予定地は，どういった場所になるのか。また，場所の選定にあっては，駅前からの人の流動なども意図されたのだろうか。

事務局：

・　旧苫小牧市立東小学校跡地が建設予定地である。候補には駅前の百貨店跡地等もあったが，小学校跡地の方が他の候補と比較して敷地面積が大きく，ゆとりのある設計が可能な点で選定された。
・　駅前の通りから南下した位置に予定地があるので，流動性や回遊性の面からも望ましいという議論があった。

進行役

・　議論の中では，駅前の方が利便性が良い等の話もあったが，苫小牧市は東西に細長く，市民の交通手段は自家用車がメインである点も考慮された。
・　コミュニティバスや EV バスの導入検討に加え，駅と市民ホールの間の約１km の道を「ウォーカブルストリート」と設定し，徒歩や自動運転バス等で回遊性を高めるための検討を進めているが，これもホールの建設検討段階で既に議論していた。

参加者：

・　交通安全センターや労働福祉センターなど異なる機能を複合するホールのつくり方は日本全体として主流なのか。
・　苫小牧市民文化ホールの場合，４万平方メートルと広大な敷地面積を有していることも複合化の理由となったのだろうか。

進行役：

・　多くの自治体では公共施設の老朽化に加え，人口減少により施設機能が飽和していることが背景にある。
・　施設機能を一つに複合し，相互利用を促すことで中心市街地を活性化させるという意味では主流である。

- 自治体ごとに公共施設の老朽化状況は異なるため，複合化するだけでなく，どのように活用するのかという視点も重要である。老朽化しているから複合すれば良いという話ではない。
- 苫小牧市民文化ホールに関しては，敷地の大きさに加え，敷地周辺に文化施設を積極的に誘致する上位計画があったことも関係している。

参加者：
- 水戸市民会館と水戸芸術館の機能の役割分担はどのようになっているのか。

事務局
- 水戸芸術館は，音響に特化した約 600 席のホールと，能や狂言などに対応できる約 400 席の平土間形式のホールを有しており，専門性が高い一方，大規模な興行を受け入れられるほどの客席数は有していない。
- 水戸市民会館は，最大 2,000 席（催事により使用する席数を変動可能）の大ホールを有し，大規模なコンサートから小規模な演奏会まで，幅広い演目に対応できるよう多目的な利用用途が重視されている。

進行役：
- 水戸芸術館の建設された時期は，芸術文化に特化した専用施設の建設が重視されていたという時代背景も関係していると思われる。
- 水戸市民会館は，特定の用途に特化したホールでは上演できない演目にも幅広く対応していることに加え，コンベンション機能を入れることで機能強化を図っている。

参加者：
- 旭川市と北海道など，異なる自治体がそれぞれ管轄している施設を複合化するといったことは，現実的に可能なのだろうか。

進行役：
- 管理をする公共団体が異なる場合，様々な課題がある。複合化することで，一つの建物でありながら，機能が分断された施設の造り方になってしまう場合もある。

参加者：
- 旭川市の場合，ときわ市民ホールや公民館が日常的に利用されているため，それらの機能を複合するのが望ましいのではないか。

進行役：

・　公共ホールが主に市町村単位で設置されるのに対し，公民館はより小規模な地区単位で設置される公共施設であり，役割が違うため複合化されにくい傾向がある。

参加者：

・　紹介された４つの事例では飲食機能は複合されているのか。また，そうした要素は計画段階で検討されるものなのか。

進行役：

・　規模は異なるが，全ての施設で複合されている。
・　最近のホールは，ほとんどが飲食施設を前提とした計画になっているが，多くの場合，レストランよりもカフェのような形態を取る場合が多い。
・　複合する際には収支を考えて計画する必要がある。

３―（３）　キーワードマップについて

事務局：

資料３　に基づき説明

参加者：

・　建物の敷居の低さは重要と感じる。日常的な利用を見込むのならば，誰でも入りやすいような透明性のある外観デザインが好ましい。
・　旭川は芸術のレベルが高い点に特色があると考えている。自然や花が植えられていたり，日常的な接点があったりする。自然豊かな旭川市で醸成された文化芸術を育て，次世代に繋いでいくような場所になると良い。
・　コンセプトには，芸術文化は外せないと感じる。また，「相互性」や「誰もが利用できる」というような意味合いが含まれると良いのではないか。

進行役：

・　格式高い文化芸術を重視するのか，文化芸術を中心とした市民活動を重視するのか，どちらが旭川市民の意向に近いのか，皆様の意見を伺いたい。

参加者：

・　書道や写真の分野では組織も含めてしっかり活動が続いているが，美術に関心をもち，展示等に施設を利用する人口が減少していることは事実である。

進行役：

- 美術分野に限った話ではないが，自己表現の手段が多様化し,インターネットに接続すれば世界にまで広がっていることを考慮して，地域の公共施設の役割や提供するサービスを考えなくてはいけない。

参加者：

- かつて旭川駅前の百貨店には食堂街と隣接した市民ギャラリーがあり，立ち寄った市民が気軽に美術を鑑賞できた。稼働率も非常に高く，多くの来場者があった。
- 催物があるから利用するのではなく，何かのついでに立ち寄れる施設であってほしい。
- 現在,旭川市には中規模の個展やギャラリーを開催できる施設がないため,そうした催しは他の自治体で実施している状況である。

進行役：

- 近隣市町村に充足可能な機能があるということは,良い点でもある。全ての機能を自分たちのまちの中で揃えるのではなく，一部を周辺に任せるという考え方もある。
- 苫小牧市の事例では,芸術性を尖らせていくことよりも,機会創出や活動支援といった部分が焦点となったが，旭川市ではどうだろうか。

参加者：

- 施設の中に入れられる機能は限られているので，旭川市内の既存施設との役割分担を考えながらコンセプトを考える必要がある。
- コンベンション機能は外せない要素であるため，文化的な要素とのバランスを考えながら議論したい。

進行役：

- 御指摘のとおり,施設単体で全て解決することは不可能なので,近隣市町村も含めて役割分担を考えないといけない。
- 旭川市に音楽のイベントを誘致する際に，どのくらいの規模を理想としているのかを皆さんに問いたい。

参加者：

- 現市民文化会館は消防署が近いため,質の高いコンサートを誘致する場合,防音性を含めて高機能なホールにする必要があると思う。
- 北海道には札幌に「札幌コンサートホール Kitara」があり，現状では高いレベルの演奏会は札幌が担っている。旭川に高機能なホールを建てる必要があるのかも考えるべきである。

進行役：

- 現代的なスペックで建設した場合，そこまで大きな支障は出ないと思うが，イベントの主催側がサイレンの音などを懸念する可能性はある。
- 現状も開催されている全国レベルの催事等は今後も継続する必要があると思うが，そこからさらに質の高いイベントを誘致するといった方向性はないだろうか。

参加者：

- 30 年ほど前は世界的に有名な方も訪れていた印象がある。
- 道北圏の人は札幌まで足を運ぶことが難しい場合が多いため，北海道第二の都市として，世界的なコンサートを誘致できる施設がほしいというのが個人的な願いである。

進行役：

- 旭川市は旭川空港が近いため，首都圏の人からすると便利な側面もある。
- 現状のイベントを引き継ぎながらも，道北の中心として可能な範囲で質の高いコンサート等を誘致したいという総意で間違いないか。

参加者：

- 札幌の対抗軸になるという意味でも，音響性能の高いホールの存在は重要だと考えている。

進行役：

- 芸術に特化した施設ではないが，道北の中心都市として，文化芸術を担う拠点でありたいという思いは共通しているという認識である。
- 子供たちが，舞台に立つことを誇りやモチベーションに感じられるような施設であるとなお良い。

参加者

- 市民にとってアイデンティティとなるような施設であってほしい。

参加者：

- 高機能なホールを考える時には楽屋やバックヤードの使いやすさも重要である。
- 旭川市は木工が有名であるため，木を生かした建物になると旭川らしさが感じられる。
- 旭川市民が能動的に関われるようなコンペやイベントがあると，新施設に対する市民の理解や利用を促せるのではないか。
- 仮に総合庁舎跡地に新施設を建設すると仮定した場合，高層化することで建設は可能なのか。

進行役：

- ホール自体の重量はあまり大きくないため，ホール機能を高層階に設ける場合，高層化は可能である。

参加者：

- 由利本荘市文化交流館カダーレの可変式ホールの形式別の稼働率や形態変化させる際のコストはどうなっているのか。

事務局：

- 詳細な情報を把握できていないため，調査の上で回答させていただきたい。

進行役：

- 可変式ホールは一般的に建設費や維持費がかかることに加え，音響性能としても有利ではないことが想定される。また，運用に際しても，可変の都度労力が発生する。

参加者：

- 全体をフラットに開放できる構造は，災害時に避難所としても利用可能なのではないかと思うが，仮に電力を確保できない場合，手動で可動できるのか気になる。

進行役：

- 基本的にホール内部の天井には吊物設備が多いため，エントランスホールやホワイエを避難所として利用する場合が多い。
- 最近のホール施設では，非常時も活用できるよう，余白の空間を積極的に設ける場合が多い。

参加者：

- 先日「札幌文化芸術劇場 hitaru」を利用する機会があったが，積層型の建物で各層に図書館やカフェ，コンビニ等が附帯しており，目的があって来館した人はもちろん，無目的に来館した人であっても滞在可能な空間づくりが魅力的であると感じた。
- 一方で開演まで並んで待っていると，やや窮屈さを感じた。積層型は安全性も考慮する必要がある。
- 施設の新設をきっかけに，今までは誘致できなかったようなアーティストや団体を誘致できると良い。
- 旭川の場合，冬季間の暖房費など屋内スペースのランニングコストも考慮する必要がある。

進行役：

- 積層型は縦動線で移動が面倒という欠点がある一方，機能のゾーニングをしやすいので上階と下階のイベントを明確に分けられるのが利点であるが，分断してしまうため各機能の交流は平面に比べて難しくなる。各層において機能をどのように組み合わせるかという点も重要になる。
- 平面型は同じフロアで機能の相互利用を促しやすいが，建築面積が大きくなる欠点がある。

参加者：

- 水戸市の事例で，県の運営するホールと市が運営するホールがあると思うが，それぞれどのように役割分担しているのか知りたい。

進行役：

- 由利本荘市文化交流館カダーレと水戸市民会館の質問については，事務局で調査の上，回答いただきたい。
- 今回は新市民文化会館の整備に関して，「旭川らしさ（アイデンティティ）」と「旭川が担う役割」を重視する意見が多くあったと思う。
- 今後，文化芸術に関する役割をどの程度担うのかという部分を含めたコンセプトの議論をしていきたい。

４　閉会